

今週（11月14日から11月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期が切り替わる週となったものの、レートはほぼ横ばいで推移した。積み終盤となる14日と15日は、調達に目途をつけた先が多かったことから、レートは先週末比横ばいで推移した。新積み期間となる16日以降はマクロ加算残高にかかる基準比率が44%と、前積み期間比で▲5.5%と大きく減少したためか、都銀や信託が調達を控える動きが見られた。調達サイドの様子見姿勢が全般的に強いなか、▲0.075～▲0.07%と狭いレンジでの出会いとなった。3日積みとなる18日は、取り手の調達意欲がやや旺盛になり、若干取り上がる動きが見られた。無担保コールO/N物の加重平均レートは週を通して▲0.07%前後で推移した。日銀当座預金残高は、14日にTB3M物の発行・償還、16日に5Yの発行、18日に20Yの発行がある中、各種のオペ要因によって日銀当座預金残高は480兆円台後半から490兆円台前半で推移した。

ターム物の出会いは、足元金利の低下を受け、1Wから年内までの期間で▲0.07～▲0.06%のレンジで出会いが見られた。16日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ(O/N物)が1,000億円オフアーされ、54億円の落札結果となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は▲0.09～▲0.08%のレンジでの推移となった。

14日のT/N(15～16日)は積み期最終日となったものの、オフアー・ビッドに偏りは見られず、▲0.085～▲0.080%出合いで引けた。15日以降、新積み期に入っても両サイドの均衡は保たれたままで、週を通して▲0.085%近辺で安定的に推移する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y437～442、5Y149～154、10Y360～368、20Y172～182、30Y72～76、40Y13～15などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、17日に実施された1Y物入札はやや甘めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは小じっかりと推移したものの、入札結果を受け、その後の1Y周辺は軟調な展開となった。18日に実施された3M物入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは横ばい圏で推移した。

15日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でもオフアーされ、按分利回り較差+0.006%、平均利回り較差+0.008%と無難な結果となった。

●CP市場

今週は、特段のイベントはなく、陸運・鉄鋼・電気・ガス等の複数業態で大型発行が見られた。週間の金額ベースでみると、発行超となっており、市場残高は26兆円台後半で推移している。発行レートについては、概ね浅いマイナスから浅いプラス圏で決着している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/14 (月)	27,963.47	0.240	139.60	△ 0.067	△ 0.085	4,901,300
11/15 (火)	27,990.17	0.240	140.38	△ 0.067	△ 0.087	4,922,500
11/16 (水)	28,028.30	0.240	139.53	△ 0.070	△ 0.087	4,894,900
11/17 (木)	27,930.57	0.240	139.44	△ 0.071	△ 0.089	4,897,700
11/18 (金)	27,899.77	0.245	140.22	△ 0.071	△ 0.088	4,893,100

来週（11月21日から11月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/21 (月)					
11/22 (火)		流動性供給 5,000億円 11/24発行	交付税借入 13,000億円 12/2借入		
11/23 (水)	勤労感謝の日				10月の米耐久財新規受注 10月の米新築一戸建て販売件数
11/24 (木)	月例経済報告（内閣府） 9月の景気動向指数改訂状況（内閣府 14:00）				New York祝日(Thanksgiving Day)
11/25 (金)	11月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 60,000億円 11/28発行	40Y 7,000億円 11/28発行		

※11/27 (日) 日本金融学会2022年度秋季大会において両宮日銀副総裁講演

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
11/21 (月)	▲ 100	3,800	3,700	CP買入 国債補充	▲ 600 12,200		11,600	15,300	TB3M発行▲60,000償還56,000 TB1Y発行▲35,000償還34,500 変動15Y償還7,600 エネルギー対策借入▲6,500期日6,500
11/22 (火)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000	社債買入		1,000	1,000	0	
11/23 (水)	勤労感謝の日								
11/24 (木)	1,400	▲ 5,000	▲ 3,600	全店共通	▲ 5,800		▲ 5,800	▲ 9,400	流動性供給▲5,000
11/25 (金)	▲ 500	49,000	48,500				0	48,500	TB6M償還30,300 国有林野借入▲800償還700
週間合計	1,800	45,800	47,600	—	5,800	1,000	6,800	54,400	

11/21は日銀予想、11/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段の材料は無く、低位横ばいでの推移が予想される。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、▲0.090～▲0.080%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、25日にCP等買入オペが4,000億円予定されている。

主要なイベントは、特に無い。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入